

2023 年度（令和 5 年度）

# 事業報告書

自 2022 年（令和 5 年）4 月 1 日

至 2024 年（令和 6 年）3 月 31 日

公益財団法人 日本ライフセービング協会  
JAPAN LIFESAVING ASSOCIATION  
( J L A )

## 目 次

### 【公益目的事業】

- < 1 > 監視救助事業
- < 2 > 資格認定事業
- < 3 > 安全・防災教育・環境保全事業
- < 4 > 競技推進事業
- < 5 > 国際交流事業
- < 6 > 広報活動事業
- < 7 > その他の事業

### 【その他の事業】

- < 1 > 認定ライフセーバー養成のための資格認定事業

### 【収益事業】

- < 1 > STCW 条約\*に基づく基本訓練講習事業

\*STCW 条約・・・The International Convention on Standards of Training,  
Certification and Watchkeeping for Seafarers, 1978)

【1978年の船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約】

備考：表記について

- ・国際ライフセービング連盟 → I L S
- ・日本ライフセービング協会 → J L A
- ・L S → ライフセービング
- ・L S C → ライフセービングクラブ

## 【公益目的事業】

ライフセービングに関する公益目的事業として、海岸・プール等をはじめとする全国の水辺の事故防止に向けた安全教育、監視・救助、防災・防災教育、環境保全等を行うライフセービングの普及・啓発及び発展に関する事業を行う。

### < 1 > 監視救助事業

#### 1. 監視救助業務

(1) 監視救助事業とは、海岸や河川、プール等の水辺に海水浴客やスポーツイベント等の来客が訪れた際、その監視と救助を行う事業である。

本協会では静岡県、東京都、和歌山県、神奈川県等の自治体から各海水浴場の監視救助活動業務の依頼を受けて事業を実施した。また、その他の自治体については、都道府県協会又は各加盟クラブがその依頼を受けて事業を実施しており、本協会はそれらについては活動支援を行った。なお、今後は迅速な対応が求められることなどから都道府県協会や各加盟クラブが事業を実施する形態に順次移行していく方針である。

	海水浴場名	地区	期間
1	新島地区・第一前浜海水浴場	東京都新島村	8/1-8/31
2	新島地区・第二前浜海水浴場		
3	新島地区・第四前浜海水浴場		
4	新島地区・間々下浦海水浴場		
5	新島地区・若郷前浜海水浴場		
6	新島地区・羽伏浦海水浴場		
7	式根島地区・泊海水浴場	東京都三宅村	7/15-8/15
8	式根島地区・大浦海水浴場		
9	式根島地区・中の浦海水浴場		
10	式根島地区・石白川海水浴場		
11	三宅島地区・錆が浜海水浴場	三浦市/横須賀市エリア	7/1-8/31
12	三宅島地区・三池浜海水浴場		
13	三宅島地区・伊ヶ谷浜海水浴場		
14	三宅島地区・大久保浜海水浴場		
15	三宅島地区・長太郎池海水浴場		
16	神奈川県協定事業① 神奈川県L S協会との共同事業 海岸巡視業務（エリアマネージャー）	東部エリア（葉山～腰越）	7/1-8/31
		中央エリア（東浜～茅ヶ崎）	7/1-8/31
		西部エリア（平塚～湯河原）	7/1-8/31

17	神奈川県協定事業② 神奈川県L S協会との共同事業 海岸水難事故防止活動業務	三浦市 大浦海岸	・7/1-8/27 までの土日祝 ・7/18-8/18 までの平日
18	神奈川県協定事業③ 神奈川県L S協会との共同事業 海岸水難事故防止活動業務	三浦市 横堀海岸	・7/1-8/27 までの土日祝 ・7/18-8/18 までの平日
19	熱川温泉 You 湯ビーチ	静岡県東伊豆町	7/22-8/27
20	今井浜海水浴場	静岡県河津町	7/15-8/20
21	土肥海水浴場	静岡県伊豆市	7/15-8/27
22	小土肥海水浴場		
23	大浜海水浴場	静岡県西伊豆町	7/29-8/20
24	乗浜海水浴場		7/15-8/20
25	浮島海水浴場		7/15-8/20
26	田子瀬浜海水浴場		7/15-8/20
27	黄金崎海水浴場		7/29-8/20
28	深田海水浴場		7/15-8/20
29	松崎海水浴場		静岡県松崎町
30	岩地海水浴場		
31	石部海水浴場		
32	雲見海水浴場		
33	白良浜海水浴場	和歌山県白浜町	5/3-9/1

(2) スポーツイベント（\*オープンウォータースイミングやトライアスロン、水泳等）の監視とその救助を行う。

\*「オープンウォータースイミング」海、川、湖など、自然の水の中で行なわれる長距離の水泳競技であり、国際水泳連盟が定める競技規則のもと国際的に統一されたルールで行われ遠泳とは異なる。「OWS」と略す。

事業内容	開催日	参加延数	会場
千葉県水泳連盟 日本マスターズ水泳短水路大会 2023	4/15-4/16 (2日間)	12名	千葉国際総合水泳場
日本ローイング協会 第101回全日本ローイング選手権大会	5/15-5/21 (7日間)	48名	海の森水上競技場
日本水泳連盟 OWS オーシャンズカップ館山 2023	6/10-6/11 (2日間)	25名	館山市北条海岸
東京都水泳協会 伊豆大島 OWS 2023	7/1-7/2 (2日間)	20名	大島町 OWS スイムエリア
世界水泳選手権 2023 実行委員会 世界水泳選手権 2023 OWS 福岡大会	7/8-7/21 (14日間)	210名	福岡市中央区地行浜
館山 OWS2022 実行委員会	7/22-7/23 (2日間)	22名	館山市北条海岸

館山 OWS2022			
世界水泳選手権 2023 実行委員会 世界水泳選手権 2023 OWS マスターズ	7/30-8/7 (9日間)	93名	福岡市中央区地行浜
日本水泳連盟 第99回日本学生選手権 OWS 競技大会	8/25-8/27 (3日間)	33名	館山市北条海岸
佐賀国スポ伊万里市実行委員会 佐賀国スポ OWS リハーサル大会	9/9-9/10 (2日間)	20名	伊万里市大会会場
日本マスターズ水泳協会 第38回日本マスターズ水泳選手権大会	9/14-9/18 (5日間)	49名	石川県金沢プール
佐賀国スポ唐津市実行委員会 佐賀国スポトライアスロンリハーサル大会	9/16-9/17 (2日間)	34名	唐津市大会会場
鹿児島国スポ屋久島町実行委員会 鹿児島国スポ OWS 大会	9/16-9/18 (3日間)	34名	屋久島町大会会場
泉南スポーツコミッション協会 泉南 OWS 大会 2023 (WMG プレ大会)	9/30-10/1 (2日間)	29名	泉南市りんくう南浜
日本知的障害者水泳連盟 第26回日本知的障害者選手権(25m)水泳競技大会	10/1 (1日間)	2名	立教学院セントポールズ・ アクアティクスセンター
鹿児島国スポ天城町実行委員会 鹿児島国スポトライアスロン大会	10/7-10/8 (2日間)	24名	徳之島天城町大会会場
日本トライアスロン連合 第29回日本トライアスロン選手権大会	10/15 (1日間)	12名	お台場海浜公園
すさき OWS2023 実行委員会 すさき OWS2023	10/21-10/22 (2日間)	30名	須崎市シーパーク大島
千葉県水泳連盟 第24回千葉マスターズ水泳選手権大会	10/21-10/22 (2日間)	6名	千葉国際総合水泳場
WTC2023 宮崎実行委員会 ワールドトライアスロンカップ 2023	10/26-10/29 (4日間)	45名	みやざき臨海公園
日本水泳連盟 OWS 日本選手権水泳競技大会	11/3-11/5 (3日間)	46名	館山市北条海岸
日本マスターズ水泳協会 第10回日本マスターズ水泳スプリント選手権大会	11/25-11/26 (2日間)	14名	千葉国際総合水泳場
日本知的障害者水泳連盟 第7回日本知的障害者選手権新春水泳競技大会	1/8 (1日間)	5名	千葉国際総合水泳場
新春マスターズスイムミート 2024 実行委員会	2/10-2/11 (2日間)	8名	千葉国際総合水泳場

新春マスターズスイムミート 2024			
--------------------	--	--	--

## 2. 水辺の溺水事故防止に向けた調査研究

ライフセービングレポート（全国パトロール統計：e-log）の集計および、レスキューレポート、傷病者等記録票の検証とフィードバック、水浴場調査を実施した。本協会に加盟するライフセービングクラブが全国において監視救助活動を行った結果を集計し、それを公表することで水辺の溺水事故防止につなげる事業である。

結果は例年本協会の事業報告書で公開し、2023 年度においては報告水浴場計 220 か所（海水浴場 215、湖水浴場 2、プール 3）、携わったライフセーバー総数は 37,575 人、パトロール延時間は 303,290 時間であった。

	2023 年	2022 年	2021 年	2020 年	2019 年
報告水浴場数	215	207	157	107	197
水浴客総入込数	4,105,659	4,407,175	2,139,325	1,498,088	8,289,594
レスキュー総数	416	507	314	291	2,128
Preventive Action	401	449	308	284	2,113
Emergency Care	15	19	6	7	15

	2018 年	2017 年	2016 年	2015 年
報告水浴場数	200	195	204	197
水浴客総入込数	9,522,415	8,524,042	11,727,383	11,260,363
レスキュー総数	2,362	1,776	2,276	3,163
Preventive Action	2,334	1,761	2,239	3,123
Emergency Care	28	15	37	40

## 3. 監視救助活動の推進に向けた器材等配備支援

全国のライフセーバー及びライフセービングクラブに対して、監視救助活動で利活用する器材等の配備を行った。一部有償で支援を行っているが、原価及び管理経費による支出のため利益を伴う事業ではない。

### (1) 監視救助用ユニフォーム等の配備支援

- ・対象：本協会認定資格所有者
- ・内容：パトロールユニフォーム、パトロール水着等

監視救助用ユニフォーム	数量
パトロールユニフォーム長袖	233
パトロールユニフォーム半袖	377
ビーチパトロールシャツ半袖	22
プールライフセーバー半袖	9
サーフパンツ男子	464
サーフパンツ女子	148
男子水着ボクサー型 1	52
男子水着ボクサー型 2	137
男子水着ブーメラン型 1	24
男子水着ブーメラン型 2	51
女子水着トップス型 1	13
女子水着トップス型 2	91
女子水着ボクサー型 1	9
女子水着ボクサー型 2	41
女子水着ブーメラン型 1	7
女子水着ブーメラン型 2	50
ラッシュガード	98
サーフハット	103
つば付きキャップ	166

(2) 監視救助用器材等の配備支援 ※日本財団助成事業

- ・対象：都道府県協会及び加盟クラブ
- ・内容：レスキューボード/チューブ/ボード用ラック、IoT等を活用した監視救助システム

配備品	数量
レスキューボード	37 本
レスキューチューブ	124 本
AED	10 機
津波フラッグ	28 旗
エリアフラッグ	28 旗
高度化事業* IoT 監視救助システム（神奈川県鎌倉市材木座海岸）	1 セット

\*ライフセービングの高度化事業

JLA では先端技術を取り入れたライフセービングの高度化を 2019 年より進めている。

① AI と IoT を活用した海辺のみまもりシステムの開発

2019 年に開発し、2022 年までに全国 5 ヶ所（千葉県御宿町中央海岸、宮崎県宮崎市青

島ビーチ、福井県高浜町若狭和田海岸、神奈川県鎌倉市由比ガ浜海岸、静岡県下田市吉佐美海岸)で運用。このシステムは、AIが離岸流発生と離岸流エリアへの利用者の立ち入りをリアルタイムで自動検知し、離岸流発生時には、利用者のスマートフォンアプリにアラートを通知、また、ライフセーバーのスマートウォッチにも通知、離岸流エリアへの利用者の立ち入りがあった際にはライフセーバーのスマートウォッチに救助要請を発報。

また、津波注意報、警報発令時には、海岸利用者数を自動カウントし管轄行政の登録メールアドレスに海岸画像とともに通知、あらかじめ設定した間隔にて自動更新(通知)される。これにより、有事に海岸にどの程度の避難者がいて、時間経過とともに避難が進んでいるかを確認可能。さらに、ヘルプシグナルの自動検知も試験運用中。

2023年には離岸流エリアに利用者が立ち入った際にドローンがその地点まで自動飛行し注意喚起のアナウンスをして自動で戻ってくるシステムの試験運用を実施し2024年には実装を予定。

② ウォータセーフティアプリ (WS) アプリの開発

前述のシステムと連動するスマートフォンアプリを2020年に開発し、全国のライフセーバーが活動する海水浴場情報とともに公開。

③ e-log の導入

ライフセーバーの活動記録の電子化を行い、2022年度より本運用。日々のデータが一元管理される。

④ ドローンパトロール

2021年、2022年に一部の地域で試験的に運用(神奈川県協定)。2023年より本運用にむけたトレーニング(研修)を実施した。

(3) 監視救助及び巡視等に対する車両配備支援

- ・対象：都道府県協会
- ・内容：主に海水浴場開設期間に車両「ライフセーバーカー」の貸出し
- ・協賛：株式会社 SUBARU

	2023年	2022年	2021年	2020年
都道府県協会数	29 道府県+JLA 本部	26 道府県+JLA 本部	21 道府県	3 県
車両台数	32 台	29 台	21 台	12 台

## < 2 > 資格認定事業

以下の資格認定講習会、更新講習会及びライフセービングサポーター講習会は「JLA アカデミー」と称する教育機関が実施した。JLA アカデミーは、本協会が有する水辺の事故防止や人命救助に関する専門的・総合的な技術や技能、知識等を身に付けるための機会を広く社会に提供することを目的としている。また、その目的を達成するため体系的な資格認定プログラムを有している。

### 1. 資格認定講習会及び更新講習会等の開催

本協会では、誰もが身につけるべき「自分自身を守る、溺れないためのプログラム」「目の前で人が倒れた場合の対処を学ぶプログラム」から、「実際に事故を未然に防ぎ、溺者を助ける救助技術」まで、水辺の事故をゼロにするための資格講習会を開催しており、それぞれのコースについての資格認定をしている。

\*当該資格認定事業では、ライフセーバーを養成することを目的としていない。広く人命救助と水辺の事故の減少に資するための資格認定講習会である。

\*ライフセーバーの認定についてはウォーターセーフティ及びBLS（CPR+AED）の両コースを取得し、さらに上位の知識、技能を得るための講習の受講が必要であり、不特定多数の者の利益の増進に寄与する事業とは言えず、またライフセーバーの人員確保という相互扶助の面から、その他の事業（相互扶助等事業）として実施する。

以下の資格認定講習会を開催し資格の認定を行う。また、資格取得者に対して更新講習を実施する。以下の2種類の講習を実施する。

#### (1) BLS\*（CPR\*\*+AED）コース

\*BLS・・・Basic Life Support（一次救命処置）心肺蘇生とAED、気道異物の除去の3つを合わせてBLSという。

\*\*CPR・・・cardiopulmonary resuscitation（心肺蘇生法）質の高い心肺蘇生とAED等の修得を目指し人命救助及び傷病者の社会復帰を目的に実施。

#### (2) ウォーターセーフティ(WS\*)コース

\*WS・・・水辺において自身を守ることのできる知識や技能のこと。水辺における活動やアクアスポーツ等の中で自らの安全を確保し、ライフセービングの基礎となる事故防止に備えることを目的に実施。

#### (3) 資格更新講習

[認定基準]

- ① 公益財団法人日本ライフセービング協会認定の資格を有すること。
- ② 水辺の事故防止及び救命等を目的に行われる資格講習会等を通じて、公益財団法人日本ライフセービング協会が同等認定として認める専門的知識及び技術を満たす資格を有すること。

資格名	発行数	開催数
B L S コース	1, 818	178
Water safety コース	1, 155	129

## 2. ライフセービングサポーター講習会の開催

子どもの保護者や民間スポーツクラブのインストラクター、学校教員等に向けた安全教室として、企業研修や学校の授業として広く一般の要望に合わせた各種安全教育プログラム「ライフセービングサポーター講習会」を実施した。プールでのウォーターセーフティやAED、応急処置などの体験ができる。

### ※日本財団助成事業

サポーター講習会	開催数	修了証発行数
B L S	77	4, 039
Water Safety	110	10, 360

### ※株式会社 SUBARU 協賛事業

都道府県協会	日程	会場
岡山県ライフセービング協会	7/24	岡山スバル自動車岡山久米店
静岡県ライフセービング協会	8/3	静岡スバル自動車本社
広島県ライフセービング協会	10/14	広島スバル緑井店
神奈川県ライフセービング協会	11/18	神奈川スバル本社
東京都ライフセービング協会	11/25	東京スバル竹の塚店
新潟県ライフセービング協会	12/1	新潟スバル自動車本社
日本ライフセービング協会	12/2, 3	東京スバル国分寺店
福島県ライフセービング協会	12/3	福島スバル自動車本社
富山県ライフセービング協会	12/17	北陸スバル自動車 SWING 金沢西店
愛知県ライフセービング協会	12/22	名古屋スバル自動車本社
日本ライフセービング協会	1/22	東京スバル三鷹店

## 3. 資格認定講習会及びライフセービングサポーター講習会等の普及・促進に係る支援事業

地方開催での資格認定講習会（指導員養成、更新講習会含む）での指導員の実施に関わる旅費を支援した。また、ライフセービングサポーター講習会での実施諸経費を一部補助した。

## < 3 > 安全・防災教育・環境保全事業

### 1. 安全・防災教育の普及・啓発に向けた教育支援活動

#### (1) 臨海教育等へのライフセービング指導協力

臨海教育等を通じて中学生等に対する安全・防災教育を行った。

主催	日程	会場	参加数
北区教育委員会 岩井臨海学園	7月21日～8月13日	岩井海岸 (千葉県南房総市)	1,395名
国土舘大学	7月10日～7月11日	岩井海岸 (千葉県南房総市)	168名
愛知淑徳大学 健康医療科学部スポーツ・健康医科学科救急救命学専攻	8月22日～8月24日	愛知淑徳大学 長久手キャンパス 屋内温水プール	39名

#### (2) 小中学校等へのライフセービング指導協力

各小中学校からの協力要請に応じた安全・防災教育及び海洋教育推進に向けたICT教育プログラムの開発と実践を行った。学校によってICT教育プログラムを活用した室内での学習プログラムのケース、プールでの実技プログラムのケースと状況に合わせて実施した。

主催	日程	会場	参加数
武蔵野市立第二小学校 プール実技プログラム	7月12日	第二小学校プール (東京都武蔵野市)	77名
深谷市立川本北小学校 プール実技プログラム	7月14日	川本北小学校プール (埼玉県深谷市)	70名
福生市立福生第五小学校 プール実技プログラム	7月14日	福生第五小学校プール (東京都福生市)	100名
北区立豊川小学校 プール実技プログラム	7月18日	豊川小学校プール (東京都北区)	54名
高槻市立寿栄小学校 プール実技プログラム	7月18日	寿栄小学校プール (大阪府高槻市)	39名
新宿区立落合第二小学校 プール実技プログラム	7月19日	落合第二小学校プール (東京都新宿区)	180名
羽村市立羽村東小学校 プール実技プログラム	7月18日 7月19日	羽村東小学校プール (東京都羽村市)	201名
アオバジャパンインターナショナルスクール	9月22日	アオバジャパンインターナショナルスクールプール	57名

プール実技プログラム		(東京都練馬区)	
榛原郡川根本町立本川根中学校 プール実技プログラム		本川根中学校プール (静岡県榛原郡)	
可児市立東可児中学校 プール実技プログラム	7月6日	東可児中学校プール (岐阜県可児市)	105名
あま市立篠田小学校 プール実技プログラム	7月11日	篠田小学校プール (愛知県あま市)	132名
愛西市立草平小学校 プール実技プログラム	7月19日	草平小学校プール (愛知県愛西市)	85名

(3) 海洋教育支援推進に向けた ICT 教育用プログラム開発 ※日本財団助成事業

<開発目的>

海洋教育を広く推進していくために、水辺の安全教育は必須と考える。水泳を含めた水辺教育のファンデーションプログラムとなる「安全に関する知識と技能習得」のための ICT 教育の開発を目的とした。小学校、中学校学習指導要領改訂に伴う「水泳」における「安全確保につながる運動」「水泳の事故防止に関する心得」等を反映したウォーターセーフティプログラムの構築を行った。

<実施内容>

- ① 「e-Lifesaving」コンテンツ改修と拡充
- ・「みんなで学ぼう～湖でのできごと」追加制作

実施対象	会場	参加数	協力/連携
アクラブスイミングスクール	関東5店舗	128名	金子スポーツ振興株式会社
品川区立大井第一小学校保護者	オンライン	32名	品川区立大井第一小学校PTA
イオンモール和歌山	店舗	50名	イオンモール和歌山イベント

(4) 学校教員への研修協力

教員を対象とした一次救命処置や水辺の事故防止等について研修会を行った。

主催	日程	会場	参加数
足立区教育委員会 水泳事故防止研修会	5月30日	千住温水プール (東京都足立区)	70名
品川区立大井第一小学校	6月9日	品川区立大井第一小学校 (東京都品川区)	32名
北九州市社会福祉研修所	6月15日	オンライン研修	120名
大智学園高等学校	9月28日	大智学園高等学校 (東京都新宿区)	30名

## 2. 安全・防災教育の普及・啓発に向けた調査研究

### (1) 防災力強化事業

防災教育の推進及び公的救助機関（海上保安庁、気象庁、警察、消防）との連携について検証/調査、地震発生後の津波に対する備えや対策について調査研究した。

連携機関	連携内容	2023年度の成果
気象庁	2020年12月24日に気象庁と日本ライフセービング協会が「水難事故防止・防災に関する協定」を締結したことにより共催事業を開始した	2022年を継続し、2023年11月5日に国立科学博物館にて『第一部；津波のおはなし、第二部；夏季の海岸利用における津波防災を考える』と題したシンポジウムに登壇した。 主催；国立科学博物館 共催；気象庁
<p>■気象庁ホームページ</p> <p>●津波フラッグ解説ページ <a href="http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tsunami_bosai/tsunami_bosai_p2.html">http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tsunami_bosai/tsunami_bosai_p2.html</a></p> <p>●気象庁/知識・解説 YouTube チャンネル「津波フラッグ」をおぼえよう！！ <a href="https://www.youtube.com/watch?v=fMMEvxmFphM">https://www.youtube.com/watch?v=fMMEvxmFphM</a></p> <p>●マンガ小冊子「津波フラッグ」をおぼえよう！！」を気象庁と共同制作</p>		

### <津波フラッグ>

2020年の気象庁委員会にて津波フラッグが設定された。2021年、2022年とコロナの影響を受けたが各地の海水浴場では津波フラッグが配備されている。全国的に統一されていなかった津波避難時の旗が統一されたことでリスク管理が進んだ。なお、フラッグ決定には様々な意見があったが、聴覚障がい者の意見や視覚障がいにも配慮して、赤と白の格子模様である「U旗」が採択された。

## 3. 安全・防災教育の普及・啓発に向けた教室・研修会の開催

### (1) ジュニア・ライフセービング教室の開催

全国の子どもを対象にジュニア・ライフセービング教室を開催し、「自分の命は自分で守る」等の安全・防災教育を実施した。

### ※日本財団助成事業

実施団体	参加数
近江舞子 LSC	31名
お台場 LSC	20名
逗子 SLSC	14名
福山 LSC	24名
南伊豆 LSC	45名

天橋立 LSC	22 名
勝浦 LSC	18 名
湘南ひらつか LSC	22 名
茅ヶ崎 SLSC	18 名
横浜海の公園 LSC	43 名

※花王株式会社協賛事業

実施団体	日程	参加総数
小樽 LSC (北海道)	7/23, 8/13	50 名
館山 SLSC (千葉県)	7/8, 9/23	77 名
伊豆大島 LSC (東京都)	8/5, 8/11	46 名
鎌倉 LG (神奈川県)	7/17, 8/20	54 名
湘南 Golden Age アカデミー (神奈川県)	7/28	42 名
湘南ひらつか LSC (神奈川県)	7/17, 7/23, 8/21	65 名
茅ヶ崎 SLSC (神奈川県)	7/22, 8/12	26 名
横浜海の公園 LSC (神奈川県)	7/23, 8/6, 8/20-22	46 名
静波 LC (静岡県)	7/17, 8/20	44 名
南伊豆 LSC (静岡県)	8/11, 8/13	20 名
伊勢志摩 LSC (三重県)	7/17, 7/23	50 名
天橋立 LSC (京都府)	8/6, 8/12-13, 9/10	67 名
広島 SLSC (広島県)	7/17, 8/11	48 名
萩 SLSC (山口県)	7/29-30, 8/11-13, 8/19-20	145 名
熊本 LSC (熊本県)	7/22, 8/12	39 名

(2) ジュニア・ライフセービング教室の開催に関する資器材等の配備支援 ※日本財団助成事業

- ・対象：都道府県協会及び加盟クラブ
- ・内容：ニッパーボード、ジュニア教本、ジュニアキャップ等

関連資器材	数量
ライフジャケット	150
ジュニア用ラッシュガード	150
ジュニア用キャップ	150
ニッパーボード	30
ジュニア教室用ポップアップバナー	10
ジュニアテキスト	4,000
水辺の安全啓発クリアファイル	21,376
ジュニア用ウエットスーツ	142
ビーチかるた	10

(3) 青少年に対する研修会

ライフセービングを担う人材を育成するために大学生を対象とした研修会を実施した。

日程	会場	内容	参加数
2月10～11日	オリンピックセンター (東京都渋谷区)	学生リーダーズキャンプ	24 大学 39 名

(4) ライフセーバーに対する研修会

「水辺の事故ゼロ」を目指し、より質の高い監視救助活動を行うことを目的に、溺水事故防止に関する事項、溺水事故の事例検証について情報共有する研修会やライフセーバー自身のスキルアップを目的とした研修会等を実施した。

■シミュレーション審査会 ※日本財団助成事業

日程	会場	参加数
10月29日	保田海岸 (千葉県鋸南町)	・6 チーム 36 名 ・スタッフ他 71 名
11月4日	田ノ浦ビーチ (大分県大分市)	・3 チーム 14 名 ・スタッフ他 54 名
11月12日	横浜海の公園 (神奈川県横浜市)	・9 チーム 54 名 ・スタッフ他 147 名
11月26日	さがらサンビーチ (静岡県牧之原市)	・9 チーム 54 名 ・スタッフ他 52 名
12月2日	片男波海岸 (和歌山県和歌山市)	・3 チーム 18 名 ・スタッフ他 55 名
12月3日	新湊アイシン軽金属スポーツセンター 体育館 (富山県射水市)	・3 チーム 18 名 ・スタッフ他 55 名

■スキルアップ研修会

日程	内容	会場	参加数
10月7日	レスキューミーティング	神奈川県藤沢市	126 名
2月25日	サーフトレーニングクリニック	神奈川県横浜市	10 名
3月29日	サーフトレーニングクリニック	千葉県山武市	21 名

(5) インフレーターレスキューボート (IRB\*) に関する消防向け教育カリキュラムの開発と IRB レスキュー技術に関する研修会等の開催 \*Inflatable Rescue Boat・・・救助用ボートの意

浮遊物が多い洪水や津波・高潮などの水災害において、より多くの要救助者を運搬する機材として優位である IRB に関し、全国の消防を対象にした教育カリキュラムの開発と IRB レスキュー技術に

関する研修会等を開催し、ライフセーバーと全国消防が連携することで、より多くの救助が可能な体制の構築を図った。

■ IRB を用いた救助技術講習会 ※日本財団助成事業

日程	参加地域消防	参加数
5月23日	岡山県瀬戸内市消防本部	10名
10月26日	福岡県宗像市消防本部	4名
10月26日	福岡県粕屋北部消防本部	3名
10月26日	福岡県直方・鞍手広域市町村事務組合消防本部	3名
11月2日	香川県小豆地区消防本部	10名
11月8日	茨城県常陸大宮市消防本部	10名
11月17日	宮崎県延岡市消防本部	10名
12月6日～7日	千葉県夷隅郡市広域市町村圏事務組合消防本部	11名

(6) 実践研究報告会「令和の日本型学校体育構築支援事業」 ※スポーツ庁委託事業

学校教育における水難事故防止対策の強化を目指し、全国の監視救助活動の現場から得た救助救命の実績と多くの児童生徒に対して実践してきたウォーターセーフティプログラムをもとに、自己保全のための学習内容や指導方法の工夫、さらには有効な教育連携についての実践研究を実施し、その成果を実践研究報告会で発表した。

テーマ	日程	目的
実践研究報告会 「学校における水難事故防止対策の強化」	2月25日	学校における水難事故防止対策としての授業事例から、具体的な授業内容や工夫、留意点等、広く発信することで、授業実施の可能性を広げ、全ての子ども達の学ぶ機会につながることを目的として開催。

内容	報告者
スポーツ庁委託事業 概要説明	日本ライフセービング協会教育本部長 松本貴行
カヌー・スラロームセンターにおける授業 実施報告Ⅰ～海編～	日本ライフセービング協会学校教育推進委員 萩原隆次郎
カヌー・スラロームセンターにおける授業 実施報告Ⅱ～川編～	川に学ぶ体験活動協議会事務局員 橘昌憲
Ⅰ Ⅱ参加児童・生徒によるアンケート調査 結果と考察(質疑応答)	日本ライフセービング協会地域教育推進委員 國木孝治
水泳学習におけるウォーターセーフティ授業 及び教員研修会の実施報告(質疑応答)	日本ライフセービング協会アカデミー本部長 佐藤洋二郎
パネルディスカッション	ファシリテーター 日本ライフセービング協会学校教育推進委員 小田真木子

	<p>&lt;パネラー&gt;</p> <p>公益財団法人河川財団 子どもの水辺サポートセンター主任研究員 菅原一成</p> <p>一般社団法人吉川慎之介記念基金 代表 吉川優子</p>
<p>基調講演 1</p> <p>『ウォーターセーフティ教育の未来』</p>	<p>中央大学 教授 小峯力</p>
<p>総括・閉会挨拶</p>	<p>公益財団法人日本水泳連盟 副会長 齋藤由紀</p>

(7) 誰でも海を楽しめる環境の創出 ※日本財団「海と日本」助成事業

海というフィールドの特性を活かし、既存のライフセービングクラブ（LSC）が実施している障がい者を対象とするサポートカリキュラムと連携して、障がいの課題を取り除き、障がいの有無に関わらず、誰でも安全に海を楽しめる環境の創造に向けて以下 7 箇所の事業のサポートを行い、合計 414 名の参加を得ることができた。また、参加者アンケートによって活動満足度 94 % を得ることができた。事業の成果物として「誰もが海で遊べるための「海辺のノーマライゼーション」に関する手引き」を作成し、JLA ホームページと日本財団図書館サイトで公開した。

日程	内容	会場と実施クラブ	参加数
7月22日、 8月20日	水陸両用車イスやライフジャケット、ビーチマットを用いて障がい者の海水浴の体験会をサポート	外浦海水浴場 静岡県下田市/下田 LSC	22名
7月22日～ 8月20日	海水浴場のサービスとして、バリアフリービーチ運営をライフセーバーが担い、水陸両用車イス体験等、障がい者の海水浴をサポート	大洗海水浴場 茨城県大洗町/大洗 SLSC	119名
8月1日～ 8月15日	海水浴場のサービスとして、バリアフリービーチ運営をライフセーバーが担い、水陸両用車イス体験、ニッパーボード体験、ライフジャケット借用等、障がい者の海水浴をサポート	SEAPARK 柿崎 静岡県下田市/下田 LSC	80名
8月1日～ 8月14日	水陸両用車イス体験、ニッパーボード体験、ライフジャケット借用等、障がい者の海水浴をサポート	伊ヶ谷海水浴場 東京都三宅村/三宅島 SLSC	6名
8月6日-7日	水陸両用車イスやライフジャケットを用いて障がい者の海水浴をサポート	アジュール舞子海水浴場 兵庫県神戸市/神戸 LSC	8名
8月20日	水陸両用車イス体験、ニッパーボード、ビックサップ体験、親子シーカヤック体験等、障がい者の海水浴をサポート	鼠ヶ関旧海水浴場 山形県鶴岡市/救助救命本部	175名
11月26日	プールで SUP 体験、レスキューボード体験等、障がい者の親水をサポート	新舞子ヘルスプール 福島いわき市/いわき LSC	4名
<p>成果物：「誰もが海で遊べるための「海辺のノーマライゼーション」に関する手引き」を作成し、JLA のホームページと日本財団図書館サイトで成果物の公開を行った。</p>			

#### 4. 環境保全活動

全国の水辺の清掃及び水辺を利用する一般市民に対して環境保全についての教育を実施した。

##### ■ビーチクリーン活動

主な日程	会場	主な内容
7月1日～8月31日	各地の海水浴場等（約200か所）	ビーチクリーン活動

## < 4 > 競技推進事業

### （事業実施の背景）

ライフセービング競技の目的は人命救助の向上にある。実際の現場での救助の際には瞬時に必要とされる行動をとれる技術の錬磨と基礎体力が必要であり、それには日頃の救助技術等の練習・訓練・体力づくりがその基礎となる。技術の向上、持久力や基礎体力の向上には他者との競い合いが最も近道であり、結果そこで仲間との連帯感の向上、技術の再確認等がなされる。そのことが人命救助へとつながる。競技種目はビーチ種目、スイム種目、ボード&サーフスキー種目、オーシャンマンレース等があり、その対象もジュニア（小学生）、ユース（中学生/高校生）、学生、社会人など幅広い。

### 1. 主催競技会の開催

年間を通じてプールや海岸等で競技大会を実施した。

開催日	大会名	参加数	会場
5月13日～14日	第36回全日本プール競技選手権	38チーム356名	横浜国際プール（神奈川県）
5月27日～28日	全日本ジュニア/ユース/マスターズ（ビーチ）	25チーム382名	横浜海の公園（神奈川県）
6月17日～8日	第36回全日本種目別選手権	55チーム514名	白浜大浜海岸（静岡県）
9月2日～3日	全日本ジュニア/ユース/マスターズ（サーフ）	26チーム505名	外浦海岸（静岡県）
9月23日～24日	第38回全日本学生選手権	40チーム608名	御宿海岸（千葉県）
10月7日～8日	第49回全日本選手権	56チーム597名	片瀬西浜海岸（神奈川県）
10月22日	第23回オーシャンサーフチャレンジ in 白浜	16チーム119名	白良浜海水浴場（和歌山県）
11月3日～4日	短水路プール競技記録会	15チーム136名	東京スイミングセンター（東京都）
11月11日	ビーチフラッグスシリーズ	102名	MIYASHITA PARK（東京都）
11月19日	第1回全日本IRB競技選手権	6チーム47名	館山寺サンビーチ（静岡県）
1月27日～28日	第15回全日本学生プール競技選手権	55チーム523名	静岡県富士水泳場（静岡県）
2月17日～18日	全日本ジュニア/ユース/マスターズ（プール）	25チーム335名	日環アリーナ栃木（栃木県）
2月24日	第3回全日本学生SERC選手権	10チーム85名	西ヶ谷屋内プール（静岡県）
2月25日	第3回全日本SERC選手権	16チーム106名	

2. 選手強化等事業 ※協賛：(株) 三洋物産/ (株) 三洋販売

ライフセービング競技における競技者の競技力強化・育成事業を実施した。

(1) 強化合宿・研修合宿等事業

日程	対象	会場	内容
4月15-16日	HPT-A, B, C	国際武道大学・御宿海岸（千葉県）	強化合宿
4月29日	HPT-A, B, C	栃木県立温水プール館（栃木県）	強化合宿
5月20-21日	HPT-A, B, C	三浦海岸（神奈川県）	強化合宿 地域競技会に参加
7月8-9日	HPT-A, B, C	栃木県立温水プール館（栃木県） 大竹銚田海岸（茨城県）	強化合宿
8月5-6日	HPT-A, B, C	国際武道大学・御宿海岸（千葉県）	強化合宿
8月19-20日	ISRC ユース日本代表	国際武道大学・御宿海岸（千葉県）	強化合宿
9月2-3日	ISRC オープン日本代表	国際武道大学・御宿海岸（千葉県）	強化合宿
10月21-22日	HPT-A, B, C	流通経済大学（茨城県）	強化合宿
12月23-24日	HPT-A, B, C	国際武道大学・御宿海岸（千葉県）	強化合宿
1月6-7日	HPT-A, B, C	国際武道大学・ 鴨川市陸上競技場（千葉県）	強化合宿
2月3-4日	HPT-A, B, C	国際武道大学（千葉県） 境川（神奈川県）	強化合宿
3月2-3日	HPT-A, B, C	国際武道大学（千葉県） 境川（神奈川県）	強化合宿

(2) 国際競技会等への代表選手選考及び派遣事業

大会名	大会期間	会場	総合順位
I SPANISH INTERNATIONAL BEACH SERIES	6月24日-25日	スペイン サントーニャ	—
International Surf Rescue Challenge 2023	9月20日-23日	アメリカ サウス・パドリー・ アイランド	オープン：5位/6か国 ユース：3位/3か国
2023 INTERNATIONAL GERMAN CUP	11月24日-25日	ドイツ ヴァーレンドルフ	—

3. スポーツ教室等開催事業

小・中・高校生、学生及び一般を対象にライフセービングスポーツの楽しさと基礎的な技術の習得を通じて地域のライフセービングスポーツの普及・振興を図った。

日程	対象	会場	内容
6月10日	小学生～大学生	鎌倉材木座海岸（神奈川県）	オーシャン競技の技術向上
6月25日	中学生～一般	新宮海岸（福岡県）	オーシャン競技の技術向上
6月26日	福岡市立西新小学校 5年生	シーサイドももち海浜公園・百道浜 （福岡県）	学校交流プログラム
11月4日-5日	小学生～大学生	東京スイミングセンター（東京都）	プール競技の技術向上

#### 4. ドーピング防止活動推進事業

国内外のドーピング防止活動の動向を踏まえ、日本アンチ・ドーピング機構に加盟・連携し、ドーピング防止教育・啓発活動を実施した。

日程	内容	参加対象	参加数
4月8日	アンチ・ドーピング研修、面談 （オンライン講義）	HPT-A, B, C	17名
4月16日	アンチ・ドーピング研修、面談 （国際武道大学）	HPT-A, B, C	11名
5月13-14日	アウトリーチ活動 （横浜国際プール）	第36回全日本プール競技選手権 参加者	49名
5月14日	ドーピング検査 （横浜国際プール）	第36回全日本プール競技選手権 参加者	実施人数 非公開
5月20日	アンチ・ドーピング研修、面談 （国際武道大学）	HPT-A, B, C	3名
8月5-6日	アンチ・ドーピング研修、面談 （御宿海岸）	ISRC 日本代表	25名
8月26日	アンチ・ドーピング研修、面談 （オンライン講義）	ISRC ユース日本代表及びその保護者 ISRC 帯同スタッフ	16名
10月7-8日	アウトリーチ活動 （片瀬西浜海岸）	第49回全日本選手権 参加者	64名
1月6日	アンチ・ドーピング研修、面談 （国際武道大学）	HPT-A, B, C	40名
2月17-18日	アウトリーチ活動 （日環アリーナ栃木）	全日本ジュニア/ユース/マスターズ選手 権大会（プール） 参加者	205名

## < 5 > 国際交流事業

### (事業実施の背景)

本協会は国内唯一の国際ライフセービング連盟（ILS）への加盟団体として、その責務を果たす役割があり、これまでも様々な国際事業に積極的に取り組んできた。今後も水辺の事故ゼロに向け国際貢献するべくより一層の国際交流を深め、世界情勢を把握したうえで国際的な活動を推進していく。ILS 主催の総会や理事会、各種専門委員会や事業に本協会役員や委員を参加させネットワークの構築や情報収集を実施し、ILS の戦略プランの遂行に貢献する。

### 【トピック】

- ILS 理事会/委員会

世界溺水防止会議に合わせて対面で、また、2月にオンラインで理事会が開かれた。会議の間には様々な団体や組織との打ち合わせがあり、各国から今後の JLA の国際的な場面での貢献に期待を感じられた。ILS 委員会には JLA から多くのメンバーが所属し各分野で貢献した。

- 世界溺水防止会議(WCDP)

2023年12月にオーストラリア・パースにて世界溺水防止会議が開催された。JLAからは石川常務理事兼救助救命本部長、松本副理事長兼教育本部長、中川理事兼国際室長がオーラルプレゼンテーション、また、中川国際室長は併せてパネルディスカッションに登壇した。日本からの発表者も多くおり、今後の溺水防止における、国際的な場面での活躍が期待される。

- 世界溺水防止デー

国連決議で毎年7月25日が「World Drowning Prevention Day 世界溺水防止デー」と宣言された。日本国内の情報発信源となるべく専用ページを設置しキャンペーンを行った。

- 国際ライフセービング連盟について

加盟国（フルメンバー114、アソシエートメンバー17）

### 国際ライフセービング連盟（ILS）役員及び専門委員会等

- (1) 中川 容子 ; ILS 理事、ILS アジア太平洋地区理事、Drowning Prevention Commission
- (2) 石川 仁憲 ; Rescue Commission
- (3) 木村 智美 ; Multi-Sport Games Committee
- (4) 栗栖 清浩 ; Lifesaving Sport Regulations Committee
- (5) 青木 将展 ; Future of Lifesaving Sport Committee
- (6) 泉田 昌美 ; Lifesaving Sport for All Committee
- (7) 出木谷啓太 ; Athletes Commission
- (8) 錦織 功延 ; Therapeutic Use Exemptions Committee

中川容子 ; ILS 理事、 ILS アジア太平洋地区理事、 Drowning Prevention Commission		
<p><b>■主な内容</b></p> <p>ILS、各国組織、団体及び WHO との連絡調整</p> <p>世界溺水防止デーについて国内で啓発</p> <p>国際会議出席など</p> <p>溺水防止シンポジウムに向けての WHO 本部との連絡調整</p>		
日程	会議名	備考
12/ 4	ILS 理事会	対面 オーストラリア パース
2/26	ILS 理事会	オンライン
12/ 4	ILS アジア太平洋地区理事会	対面
5/29-31	South East Asia Drowning Prevention Forum and Workshop 東南アジア溺水防止フォーラム&シンポジウム JLA/ILS 理事として参加。日本の溺水防止についてプレゼン。	対面 マレーシア、ペナン
8/8, 10/17	Drowning Prevention Commission Meeting	オンライン
10/3	Child Drowning Prevention Committee Meeting	オンライン
12/5-7	World Conference on Drowning Prevention 世界溺水防止会議 Panel Speaker for Shaping future strategies for drowning prevention - equity, rescue, and swimming Oral Presentation -溺水防止の今後の戦略 パネルスピーカーとして登壇 Drowning Prevention Symposium- cross-sectional efforts and collaboration JLA 溺水防止シンポジウム-横断的なコラボレーションについて発表	オンライン スピーカー
世界溺水防止デー啓発	世界溺水防止デーについて WHO からの情報収集 日本での発信	
その他	国際ライフセービング連盟(ILS)とのコミュニケーション 世界保健機構 (WHO) とのコミュニケーション 各国団体や個人とのコミュニケーション	

石川仁憲 ; Rescue Commission		
<b>■主な議案</b> LS Position statements の改訂・新規作成、WCDP2023 関連、対外連携等		
日程	会議名	備考
6/6	ILS Rescue Commission meeting	オンライン
6/8	ILS Rescue Operations Committee Meeting	オンライン
11/16	ILS Rescue Operations Committee Meeting	オンライン
11/21	ILS Rescue Commission meeting	オンライン
12/4	WCDP2023 Flood disaster strategic management	参加
12/4	WCDP2023 Flood Rip Current Survival Documentary	参加
12/7	WCDP2023 AI system	発表
2/1-	Drowning 3 <sup>rd</sup> Edition 日本の公的・民間救助機関の取り組み	執筆
3/1-	Drowning 3 <sup>rd</sup> Edition 新技術	執筆
3/1-	Drowning 3 <sup>rd</sup> Edition 津波	執筆

木村智美 ; Multi-Sport Games Committee		
<b>■主な議案</b> オリンピック競技会への競技登録を働きかける取り組み、各大陸における重要な競技大会の調査・スケジュールまとめ、選考種目、関係者への働きかけ等		
日程	会議名	備考
4/30	各国大会日程の取りまとめ案・ブリスベン 2032 オリンピック競技大会のステータスに関する情報共有	オンライン、メール

栗栖清浩 ; Lifesaving Sport Regulations Committee		
<b>■主な議案</b> ILS 競技規則改定審議及び競技規則の公開、LWC ハンドブック準備、今後の競技種目検討、質問への対応、他		
日程	会議名	備考
04/17-04/29	<b>■競技規則：公開準備</b> 前年度に完成の競技規則 2023 の公開に向けての調整	メール審議
04/18-05/02	<b>■競技規則：新しい公開方法を決定</b>	メール審議
04/20-04/21	<b>■競技規則：速報版作成</b>	メール審議
05/01	<b>■競技規則：改訂版公開</b>	ウェブ公開
05/11-05/27	<b>■世界記録：新競技の世界記録認定方針検討</b>	メール審議
06/21-6/23	<b>■世界記録：速報版作成</b> 新競技 2 種の世界記録認定方針に関する検討	メール審議
07/04	<b>■競技規則：編集会議</b> サーフの特別競技耐久レー追加審議	メール審議

07/04-07/15	■競技規則：編集会議	メール審議
07/11-07/27	■競技規則：編集会議	メール審議
7/16-7/23	■競技規則：質問対応	メール審議
8/8	■競技規則：JLA 競技規則の公開	メール
9/2	■Sport Commission 開催	遠隔会議
9/8	■競技規則：改訂版公開	ウェブ公開
9/12-13	■競技規則：質問対応	メール審議
9/12-10/10	■競技規則：フィニッシュ直後の脱帽について	メール審議
9/30-10/10	■競技規則：質問対応	メール審議
10/23-11/15	■競技規則：質問対応	メール審議
10/23-11/25	■競技規則：編集会議	メール審議
10/26-11/08	■競技規則：質問対応	メール審議
12/23	■競技規則：改訂版公開 ILS 競技規則 Final-June-2023-Clarification-V4.1-Dec-23_231223 の公開	ウェブ公開
1/11-2/1	■競技規則」 質問対応	メール審議
2/1	■競技規則：質問対応	メール審議
240206-	■競技規則：質問対応	メール審議
2/8-2/12	■競技規則：質問対応	メール審議
2/12-2/18	■器材検査方法	メール審議
3/23-4/25	■競技規則：質問対応	メール審議
3/26-4/4	■競技規則：質問対応	メール審議

青木将展 ; Future of Life Saving Sport Committee		
<p>■主な活動</p> <p>世界大会・ワールドゲームズ等の競技会の形式等について調査・研究を行い、革新的なイベントを検討していく。</p>		
日程	会議名	備考
	活動なし	

泉田昌美 ; Lifesaving Sport for All Committee		
<p>■主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェンダーや障害を持つ人たちの競技/活動に関する協議</li> <li>・ニュージーランドやオーストラリアの障害を持つ子供たちの競技会への参画</li> </ul>		
日程	会議名	備考
	活動なし（障害者を対象とした競技会がなかったため）	

出木谷啓太 ; Athletes Commission		
<p>■主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・競技者の視点におけるライフセービングスポーツの繁栄・発展のための活動</li> </ul>		
日程	会議名	備考
	活動なし	

錦織功延 ; Therapeutic Use Exemptions Committee		
<b>■主な活動</b> ・ ILS 主催大会への TUE 申請の承認の可否を協議する。TUE 申請書類は競技会前に提出されるため、メールや APP を使用して委員会メンバーが迅速に対応、協議し申請に対しての結論を下す。 ・ WADA が発行する TUE についての最新の知識を共有する		
日程	会議名	備考
5/23	Guidelines for the 2023 International Standard for TUE の共有	メール
9/5-9/13	European championships への TUE を受理、可否を協議	メール、WhatsApp
3/14-3/16	Czech lifesaving team より TUE を受理、可否を協議	メール、WhatsApp

## < 6 > 広報活動事業

### 1. SNS 利活用による情報発信

公式ホームページ等、SNS を通じて本協会の理念や事業活動を情報発信した。

媒体	ページビュー	ユーザー数
公式 JLA サイト	271,093 (前年比 100%)	158,515 (前年比 96%)
公式 LIFESAVING サイト	694,966 (前年比 109%)	145,407 (前年比 101%)

媒体	フォロワー数
公式フェイスブック	6,234 (前年比 102%)
インスタグラム	3,811 (前年比 118%)

### 2. 広報資料の作成

プレスリリース等の広報資料を通じて当協会の理念や事業活動を情報発信した。

媒体名	件数
プレスリリース	7

### 3. メディア取材対応

媒体名	件数
新聞	17
テレビ・ラジオ	39
雑誌	6
Web サイト	9

### 4. アニュアルレポートの発行

「2022 年度事業報告」を編集して冊子発行した。

## < 7 > その他の事業

### 1. 関係諸団体との連携推進

本協会の理念や活動目的に賛同・協力する地方ブロック協会、都道府県協会や加盟クラブ、関連諸団体と積極的に連携し、外部団体や広く国民に対してライフセービングの普及・促進を図る。また、関係する官公庁や教育諸機関及びスポーツ諸団体等との積極的な連携を促進した。

会議名等	日程	内容	会場
都道府県協会 代表者会議	12 月 16 日	本部報告及び 意見交換会	ハイブリッド開催 ・ビジョンセンター浜松町（東京都港区）

連携/加盟/関連団体	内容等
<u>日本サーフィン連盟</u>	(新規) JLA 理事長が理事に選任(2023) (継続) パートナーシップ協定の締結(2018-6/7) (継続) WSUPPC 世界大会への選手派遣
<u>日本水泳連盟</u>	(新規) パートナーシップ協定の締結(2024-3/19) (継続) OWS 事業協力の締結(2016-2/26) (継続) 日本水泳連盟主催 OWS 競技会及び国民体育大会等の安全担当員 及びライフセーバー派遣
<u>日本水難救済会</u>	(新規) 水難事故救助・防止に関する協定の締結(2023-4/24)
<u>日本ローイング協会</u>	(新規) パートナーシップ協定の締結(2023-7/19)
<u>NPO 神奈川県ライフセービング協会</u>	(新規) 包括協定の締結(2023-4/1)

日本スポーツ協会	(継続)承認団体として加盟(2023)
日本スポーツ政策推進機構	(継続)一般会員として団体加盟(2023)
UMI 協議会	(継続)活動会員として団体加盟(2023)
日本水路協会	(継続)「沿岸海域の総合管理のための地形データの整備プロジェクト」委員派遣(2023)
気象庁	(継続)水難事故防止・防災に関する協定(2020-12/24) (継続)津波旗講演会/講師派遣 (継続)津波旗啓発ポスター、リーフレット、デモ映像普及協力
海上保安庁	(継続)事故防止対策等に関する協定(2017-3/15) (継続)「海の安全推進本部・海の安全推進アドバイザー」委員委嘱 (継続)水辺の安全教育プログラム推進「e-Lifesaving」制作協力
消費者庁	(継続)「消費者安全調査委員会専門委員」委嘱
スポーツ庁	(継続)委託事業「令和の日本型学校体育構築支援事業」 (継続)「水泳等の事故防止について(通知)」 (継続)「スポーツ施設等安全管理講習会指導員派遣協力(通知)」 (継続)ICT教育コンテンツ「e-Lifesaving」情報提供
日本トライアスロン連合	(継続)パートナーシップ協定の締結(2016-3/16) (継続)日本トライアスロン連合主催競技会及び国民体育大会等への安全担当員及びライフセーバー派遣
日本マスターズ水泳協会	(継続)パートナーシップ協定の締結(2018-7/27) (継続)日本マスターズ水泳協会主催競技会へのライフセーバー派遣
日本ワールドゲームズ協会	(継続)正会員として団体加盟 (継続)JLA 事務局長が監事として選任
日本救護救急学会	(継続)JLA メディカルダイレクター他役員が理事として選任
民間救命士統括体制認定機構	(継続)JLA 理事長が理事、そのほか専門委員が統括医師研修認定委員会委員、救急救命士研修認定委員会委員として選任
吉川慎之介記念基金	(継続)水辺の安全教育プログラム推進「e-Lifesaving」普及協力
河川財団	(継続)水辺の安全教育プログラム推進「e-Lifesaving」制作協力
御宿町(千葉県)	(継続)相互協力協定の締結(2015-12/15) (継続)IoT監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の実施(2019年運用開始)
宮崎市(宮崎県)	(継続)IoT監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の実施(2020年運用開始)
高浜町(福井県)	(継続)IoT監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の実施(2021年運用開始)

鎌倉市（神奈川県）	（継続）IoT 監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の実施（2022 年運用開始）
下田市（静岡県）	（継続）IoT 監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の導入（2023 年運用開始）
神奈川県	（継続）海岸における水難事故防止等に向けた取り組みの推進と安全安心な海岸づくりの実現を図る連携と協力に関する包括協定締結（2020-6/19）
牧之原市（静岡県）	（継続）「ライフセービングスポーツの発展と人材の育成・強化に関する包括協定」締結（2022-5/9）
国際武道大学（千葉県）	（継続）「ライフセービングスポーツの発展と人材の育成・強化に関する包括協定」締結（2021-4/1）
学校法人国士舘（東京都）	（継続）「ドローンを活用した防災・救急救助の発展とそれに係る人材の育成・交流に関する包括協定」締結（2022-7/1）

## 2. 認定海水浴場認証事業 ※日本財団助成事業

国際ライフセービング連盟のリスク評価指標及び本協会独自の指標に基づき海水浴場の安全性を総合的に評価し認証する「認定海水浴場認証事業」を行った。

今年度を終え以下含め、合計で 38 か所となっている。

	実施場所
新規認証 5 か所	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 用宗海水浴場（静岡県静岡市）</li> <li>2. 白良浜海水浴場（和歌山県白浜町）</li> <li>3. 菊ヶ浜海水浴場（山口県萩市）</li> <li>4. 伊ヶ谷海水浴場（東京都三宅村）</li> <li>5. 高田松原海水浴場（岩手県陸前高田市）</li> </ol>
更新認証 6 か所 ※更新 3 年	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 海の公園海水浴場（神奈川県横浜市）</li> <li>2. 由比ガ浜海水浴場（神奈川県鎌倉市）</li> <li>3. 片瀬西浜・鶴沼海水浴場（神奈川県藤沢市）</li> <li>4. 銚子マリーナ海水浴場（千葉県銚子市）</li> <li>5. 片貝海水浴場（千葉県九十九里町）</li> <li>6. 不動堂海水浴場（千葉県九十九里町）</li> </ol>
リスク調査 1 か所	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 二色の浜海水浴場（大阪府貝塚市）</li> </ol>

## 【その他の事業】

### (事業実施の背景)

人命救助、水辺の事故の減少・防止のためにはライフセービングの普及と同じく実際に人命救助を行うライフセーバーの存在が不可欠であるが、日本国内ではその数がまだまだ不足している。このような現状では、水辺の事故を防止することも、人命を救助することも困難となる。そこで、当事業では主に海岸、プール等で活動する認定ライフセーバーを養成する講習を開催し、正しい知識と技術をもったライフセーバーとしてその資格を認定する。認定された者は「認定ライフセーバー」等の名称を使用し、活動することができる。

### (事業の目的)

全国の水辺の事故防止、事故の減少、人命救助、水辺の安全利用の促進を図るため、認定ライフセーバー等の養成を行う。

### (事業の内容)

以下のコース別の資格認定講習会、研修会は「JLAアカデミー」と称する教育機関が実施する。JLAアカデミーは、本協会が有する水辺の事故防止や人命救助に関する専門的・総合的な技術や技能、知識等を身に付けるための機会を広く社会に提供することを目的としている。また、その目的を達成するため体系的な資格認定プログラムを有している。

## < 1 > 認定ライフセーバー養成のための資格認定事業

### 1. 認定ライフセーバー資格認定

資格認定は大きく以下のコースに分類されている。

- (1) サーフライフセービングコース
  - (2) プールライフガーディングコース
  - (3) IRB コース \*Inflatable Rescue Boat・・・救助用ボートの意
  - (4) ジュニアエデュケーションコース
  - (5) PWRC コース \*Personal Water Rescue Craft・・・救助用水上バイクの意
- さらに最上位資格として下記の資格がある。
- (6) アシスタントインストラクター・インストラクター(指導員)

すべての事業に共通して、

- ① ウォーターセーフティ及びBLS (CPR+AED) コースの受講が完了し、両者の資格を保有していなければその上位資格である上記各コースの資格を取得することはできない。以下、ウォーターセーフティ及びBLSの資格を「基礎資格」とする。
- ② 15歳以上でなければ資格を取得できない。

#### (1) サーフライフセービングコース

基礎資格を有した上で、取得できる資格は、ベーシックサーライフセーバー及びアドバンスサー

フライフセーバー資格である。

(2) プールライフガーディングコース

基礎資格を有した上で、取得できる資格は、プールライフガード及びアドバンスプールライフガード資格である。

(3) IRB コース

基礎資格及びベーシックサーフライフセーバーの資格を有した上で、取得できる資格は、IRBクルー及びIRBドライバー資格である。

(4) ジュニアエデュケーションコース

基礎資格及びベーシックサーフライフセーバー又はプールライフガードの資格を有した上で、取得できる資格は、リーダー資格である。

(5) PWRC コース

基礎資格及びベーシックサーフライフセーバーもしくはアドバンスサーフライフセーバー資格を有した上で、取得できる資格はPWRCクルー資格及びPWRCオペレーター資格である。

(6) アシスタントインストラクター及びインストラクター資格（指導員資格について）

最上位資格として以下の各指導員資格を取得できる。

- ・BLS アシスタントインストラクター
- ・BLS インストラクター
- ・ウォーターセーフティアシスタントインストラクター
- ・ウォーターセーフティインストラクター
- ・サーフライフセービングアシスタントインストラクター
- ・サーフライフセービングインストラクター
- ・プールライフガーディングアシスタントインストラクター
- ・プールライフガーディングインストラクター
- ・IRB アシスタントインストラクター
- ・IRB インストラクター
- ・ジュニアライフセービングアシスタントインストラクター
- ・ジュニアライフセービングインストラクター
- ・PWRC アシスタントインストラクター
- ・PWRC インストラクター

これらの資格は共通して各コースの下位資格を取得した上で実務経験等の条件を満たした者が取得できるものである。

■認定ライフセーバー資格認定

資格名	発行数	開催数
ベーシックサーフライフセーバー	683	70
アドバンスサーフライフセーバー	157	23
IRB クルー	38	8
IRB ドライバー	25	7
リーダー	50	9

プールライフガード	99	23
アドバンスプールライフガード	14	6
PWRC クルー	39	6
PWRC オペレーター	6	3
資格更新	724	111
資格復活	73	40
指導員（新規）	96	16
指導員（継続）	410	16
合計	2414	338

■BLS 指導員養成講習会（以下含め計 479 名）

日程	会場	合格者
10 月 14、15、22、29 日	流通経済大学（茨城県龍ケ崎市）	6
11 月 18、19、25、26 日	東京医薬看護専門学校（東京都江戸川区）	14
11 月 23、24、25、26 日	北谷公園水泳プール（沖縄県中頭郡）	10
1 月 13、14、20、21 日	浪漫館他（静岡県静岡市）	5
2 月 17、18、3 月 2、3 日	柏崎エネルギーホール他（新潟県柏崎市）	4
3 月 9、10、16、17 日	コンパルホール（大分県大分市）	5
合計		44

■ウォーターセーフティ指導員養成講習会（以下含め計 356 名）

日程	会場	合格者
12 月 9、10 日	流通経済大学（茨城県龍ケ崎市）	11
2 月 3、4 日	スポーツクラブ BigRun（広島県福山市）	2
2 月 18、19 日	静岡県富士水泳場（静岡県富士市）	3
3 月 23、24 日	国分総合プール（鹿児島県霧島市）	7
合計		23

■サーフライフセービング指導員養成講習会（以下含め計 250 名）

日程	会場	合格者
4 月 29、30、5 月 1 日	さがらサンビーチ（静岡県牧之原市）	7
合計		7

■プールライフガーディング指導員養成講習会（以下含め計 101 名）

日程	会場	合格者
2 月 4、17、18 日	アクアブルー多摩（東京都多摩市）	1
3 月 24、25、26 日	静岡県富士水泳場（静岡県富士市）	4
合計		5

■ IRB 指導員養成講習会（以下含め計 44 名）

日程	会場	合格者
3月23、24日	さがらサンビーチ（静岡県牧之原市）	3
合計		3

■ ジュニア・ライフセービング指導員養成講習会（以下含め計 51 名）

日程	会場	合格者
3月9、10日	市民プラザ柏崎（新潟県柏崎市）	6
合計		6

■ PWRC 指導員養成講習会（以下含め計 12 名）

日程	会場	合格者
4月7、8、9、10日	嘉手納マリナー（沖縄県中頭郡）	8
合計		8

■ 指導員更新講習会

日程	会場	参加者
2月10日	ももち文化センター（福岡県福岡市）	13
2月21日 午後	オンライン	40
2月21日 夜間	オンライン	38
2月24日	アクアパーク柏崎（新潟県柏崎市）	4
2月28日	うみんちゅワーフ（沖縄県中頭郡）	10
3月3日	JR 静岡駅ビル内パルシェ（静岡県静岡市）	11
3月6日 午後	オンライン	38
3月6日 夜間	オンライン	38
3月13日 午後	オンライン	27
3月13日 夜間	オンライン	37
3月17日	コトノハ梅小路（京都府京都市）	10
3月20日	AP 浜松町（東京都港区）	28
3月30日 午前	オンライン	41
3月30日 午後	オンライン	29
3月31日 午前	オンライン	34
3月31日 午後	オンライン	12
合計		410

## 2. 認定審判員資格認定及び審判員研修会の開催

ライフセービング競技会等で審判を行うための講習会を開催し、C級審判員の資格を認定する。さらに審判員に対する研修会を実施する。

審判員の認定については、認定審判員規程に従いこれを認定する。その他、上級審判としてS、A、B級審判員を定めている。

### ■ C級認定審判員養成講習会

日程	会場	合格者
4月2日	成城学園高等学校	12
4月22日	オンライン	3
4月23日	オンライン	11
5月6日	オンライン	29
6月3日	ももちパレス	17
6月11日	オンライン	3
7月22日	オンライン	18
7月23日	オンライン	14
8月19日	オンライン	13
8月20日	オンライン	24
10月14日	オンライン	8
10月15日	オンライン	13
12月9日	オンライン	21
12月10日	オンライン	22
12月17日	東海大学静岡キャンパス	16
12月29日	KAKERU UMI CLUB HOUSE	3
1月13日	オンライン	8
1月14日	オンライン	10
2月10日	オンライン	5
3月23日	オンライン	8
3月24日	オンライン	1
	合計	259

### ■ 審判員研修会

日程	会場	参加数
1月20日	オンライン	9
2月10日	オンライン	9
	合計	18

\* \* \* \* \*

指導員資格：「更新」認定基準

[認定基準]

- ① 公益財団法人日本ライフセービング協会認定の指導員資格を有すること。
- ② 水辺の事故防止及び救命等を目的に行われる資格講習会等を通じて、公益財団法人日本ライフセービング協会が同等認定として認める専門的知識及び技術を満たす資格を有すること。

その他の資格及び審判員資格：「更新」認定基準

[認定基準]

- ① 公益財団法人日本ライフセービング協会認定の資格を有すること。
- ② 水辺の事故防止及び救命等を目的に行われる資格講習会等を通じて、公益財団法人日本ライフセービング協会が同等認定として認める専門的知識及び技術を満たす資格を有すること。

\* \* \* \* \*

(次頁続く)

## 【収益事業】

### < 1 > STCW 条約に基づく基本訓練講習事業

#### (事業実施の背景)

STCW 条約第 6 章第 1 規則を担保するための船員労働安全衛生規則第 11 条第 1 項に基づく教育及び訓練の実施について、令和 2 年 4 月に対象が拡大され内航船についても対象となった。同訓練を実施する機関は現行 6 機関のみであり、受講対象範囲が拡大されたことから、受講希望者が増加し、訓練の滞りが懸念される。

本協会は、水辺の事故防止や人命救助に関する専門的・総合的な技術や技能、知識を有しており、同訓練の実地訓練機関として十分に機能を果たし基本訓練（講習会）を実施することが可能であり、本協会が同事業に参画することで実地訓練機関の拡充を図ることが出来る。また、本協会としても、水辺の事故防止を理念に掲げる中、水辺の領域を海洋にまで広げ事業を行えることができる。

#### (事業の目的)

STCW 条約（第 6 章第 1 規則等）において規定された基本訓練について、本協会が有する水辺の事故防止や人命救助に関する専門的・総合的な技術や技能・知識を活かし、実地訓練機関として基本訓練（講習会）を実施し、対象となる船員に対し係る知識と技能を教授し、もって回避可能な人命被害の減少を図る。

#### (事業の内容)

##### STCW 条約に基づく基本訓練に係る講習会の開催

STCW 条約（第 6 章第 1 規則等）において規定された基本訓練の対象となる船員に対し、個々の生存技術に係る訓練における講習会を開催し、修了者に受講証明書を交付する。講習会の管理は本協会内【JLA アカデミー本部】が実施することとし、係る船員労働安全衛生規則上の事務については、国土交通省海事局船員政策課へ必要な届出・報告等を行う。

#### (基本訓練に関する内容)

講師は、本協会の役職員等で、講師の知識及び能力の確保・維持のための研修を受講した者が担うこととし、内容は国土交通省の定める基準に基づいて行うこととする。

#### ■基本訓練講習会

日程	会場	参加数
12 月 17 日	東大阪アリーナ	3
3 月 20 日	東大阪アリーナ	7
	合計	10

(以上)